

## イザヤ書43章「あなたを贖う方」

### 1A 神のものとされた民 1-21

#### 1B 圧政からの救い 1-4

##### 1C 水の中、火の中 1-2

##### 2C 国々の身代金 3-4

#### 2B 諸国からの帰還 5-13

##### 1C 地の四方からの帰還 5-7

##### 2C 国々に対する証し 8-13

#### 3B 荒野に流れる川 14-21

##### 1C カルデア人の逃亡 14-15

##### 2C 約束の地の平和 16-21

### 2A 呼び求めない民 22-28

#### 1B 礼拝への疲れ 22-24

#### 2B 御名のゆえの赦し 25-28

## 本文

イザヤ 43 章を開いてください。私たちは前回、主のしもべ、すなわちメシアが、人々に、真実なさばきをもたらす約束を読みました。それはまさに、イエスにあつて成就した内容です。そして、それが島々にまで及び、世界中で人々が、主をほめたたえます。ところが、肝心のイスラエルが、目があるのに見えなくされており、耳があるのに聞こえなくされています。それで、自分たちの罪の中で神の懲らしめを受けている、という話を讀んできました。

### 1A 神のものとされた民 1-21

しかし、主は、たとえ彼らが頑なであっても、それでも決して捨てず、必ず救われることを約束しておられます。主が、イスラエルを贖い、ご自分のものとされる預言を 43 章では讀んでいきます。

#### 1B 圧政からの救い 1-4

##### 1C 水の中、火の中 1-2

<sup>1</sup> だが今、主はこう言われる。ヤコブよ、あなたを創造した方、イスラエルよ、あなたを形造った方が、「恐れるな。わたしがあなたを贖ったからだ。わたしはあなたの名を呼んだ。あなたは、わたしのもの。

主は、バビロン捕囚の生活を歩んでいる、イスラエルの民に対して、ご自身が彼らを贖われる約束をしておられます。贖うとは、一度、捨てられ、売られている者を、対価を支払って買い戻し、自

分の所有とするという意味合いです。イスラエルを創造された神は、彼らが奴隷として売られていても、対価を払って贖ったのだ。ヤコブよ、イスラエルよ、と呼んで、自分のものとしたのだと明言してくださっています。

ある逸話があります。男の子が自分で船の模型を作りました。ところが、川で遊んでいたら、手から離れて、流れて行ってしまいました。下流に走っていき、探しても、見つかりませんでした。ある時、道を歩いていると、お店に自分の船の模型が展示されているではありませんか！それで、そのお店のおじさんに、「その船をください、私のものなんです。」と言いました。けれども、500 円だよ、と言われます。それで、貯金箱から 500 円を取り出し、自分のありったけのお小遣いを取り出して、それで彼は船を取り戻します。それで、こう言います。「二度、私のものになった。初めは、自分が造ったから。次に、自分が買い戻したから。」

これが、主がご自分の民にしてくださったことです。初め、造られたのですが、失われてしまいました。けれども、主が再び対価を払って、ご自分のものとしてくださったのです。

<sup>2</sup> あなたが水の中を過ぎるときも、わたしは、あなたとともにいる。川を渡るときも、あなたは押し流されず、火の中を歩いても、あなたは焼かれず、炎はあなたに燃えつかない。

イスラエルの民は、過去に、水の中を過ぎました。分かれた紅海の中を歩きました。主が共におられたからです。そして、川も渡りました。ヨシュアと民は、ヨルダン川を渡りました。主が共におられました。そして、火の中ですが、これはダニエルとその友人が、燃える火の炉の中にも、炎が燃え尽きませんでしたね。ダニエル書には、第四の者がいて、それは神々のようであると、ネブカドネツアルが言いましたが、主イエスご自身が共に彼らといてくださったのです。主は、終わりの日にもユダヤ人にそうしてくださいます。最後の試練、患難がありますが、主は選ばれた者たちのために、その日数を短くすると約束されました(マタイ 24 章)。

そして私たちは、試練においても、主がその試練から救われるのではなく、試練の中にあっても共にいて救ってくださることを約束されています。

#### 2C 国々の身代金 3-4

<sup>3</sup> わたしはあなたの神、主、イスラエルの聖なる者、あなたの救い主であるからだ。わたしはエジプトをあなたの身代金とし、クシュとセバをあなたの代わりとする。<sup>4</sup> わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している。だから、わたしは人をあなたの代わりにし、国民をあなたのいのちの代わりにする。

主は、とても面白い言い方をされます。イスラエルがペルシアのキュロス王によって、バビロンの

捕囚状態から解放され、エルサレムに帰還して神殿を建てよという命令が出されました。けれども、同じペルシア帝国は、エジプトを征服し、さらにはその南にあるクシュやセバにまで進出したのです。その取り扱い方の違いに、実は神の愛があります。ペルシアの征服をも神は用いられて、ユダヤ人にはその被害を受けるところか、神は彼らの救いに用いられるということです。それを、神は贖い金、身代金として、エジプトとクシュとセバをキュロスに引き渡したという言い方をしておられるのです。

主の愛というものは、こういうものです。愛は、等しく分配するようなものではありません。惜しみなく注がれるものです。神の愛は、その愛される対象にご自分の全ての恵みを注ぎたいと願われる特別なものです。一匹の羊が迷えば、九十九匹の羊を囲いに置いてもそれでも捜しにいきたいと願う愛であります。

ところで、ここで「わたしの目には、あなたは高価で尊い」とあります。ここで大事なものは、神の目によって高価なのだということであり、彼ら自身の中には価値があるわけではないということです。主はイスラエルに、「虫けらのヤコブ(41:14)」と言われたことを思い出してください。自分の内に何か価値あるものがあるのかという自分探しはやめてください。虫けらのようなひ弱な存在であっても、それでもご自分が造られたと言ってやまない神、それでも代価を支払ってご自分のものになりたいと願われる神、この神を見つめてください。

## 2B 諸国からの帰還 5-13

### 1C 地の四方からの帰還 5-7

<sup>5</sup> 恐れるな。わたしがあなたとともにいるからだ。わたしは東からあなたの子孫を来させ、西からあなたを集める。<sup>6</sup> 北に向かっては『引き渡せ』と言ひ、南に向かっては『引き止めるな』と言ふ。わたしの息子たちを遠くから来させ、娘たちを地の果てから来させよ。

ユダヤ人はバビロン捕囚の生活で、虐げや差別の中で恐れを抱きながら過ごしています。それは、今にまでユダヤ人が基本的に持っている恐れです。しかし、この民の始まりは、主がエジプトから奴隷状態であったのを救い出してください、約束の地に住まわせてくださったところから始まっています。つまり、虐げや恐れから解放されて安心して過ごすということです。

このことを主がキュロスを通してしてください。バビロンがペルシアによって滅ぼされた時に、バビロンによって捕え移されたユダの民のみならず、その前にアッシリアによって北イスラエルの人々も捕え移されていました。かなりの広範囲にイスラエル人は散らばっていました。その彼らを、主が再び集められることを約束されています。

しかし、歴史は、離散の民の少数だけがエルサレムに帰還したことを教えています。ペルシアに

よってわずかなユダヤ人しか戻らなかったのは。エステル記で、ペルシアの都スサに多くのユダヤ人が未だおり、ペルシアのいろいろなところにユダヤ人が散らばっていることを教えています。新約時代、聖霊が降った五旬節には、世界中からのユダヤ人が祭りに集っていました。パウロやバルナバが宣教をしていくところ、どこにでもユダヤ人がいました。当時の小アジア、今のトルコには、住民の約一割はユダヤ人だったと言われています。

そして紀元 70 年に、ローマによってユダヤ人は世界に離散してしまいます。世界の広範囲に、ユダヤ人の住まない国は手に数えるほどであるとも言われています。イエス様は、ご自分が地上に再び戻って来られる時に、彼らを天の果てから連れて戻らせることを約束されました。「マタイ 24:31 人の子は大きなラッパの響きとともに御使いたちを遣わします。すると御使いたちは、天の果てから果てまで四方から、人の子が選んだ者たちを集めます。」

そして、今現在、主の来られる前段階として、主は世界からユダヤ人を集めておられます。今のイスラエルという国は、離散していたユダヤ人が帰還するために建てられた国です。イスラエルの東は、バビロンやペルシアです。西は、欧州諸国です。そして、「北に向かつては『引き渡せ』と言います」ですが、最も、帰還民が多いのは旧ソ連や東欧です。今のイスラエルでは、ヘブライ語、英語の他に、ロシア語も多く使われているぐらいです。それから、「南に向かつては『引き止めるな』と言う」とありますが、イエメンやエチオピアに住むユダヤ人たちが、今、イスラエルに大勢います。イスラエルが建国後、何度となく、政府は、飛行機を使って、また陸路で、ユダヤ人を連れ出す作戦を遂行しました。

<sup>7</sup> わたしの名で呼ばれるすべての者は、わたしの栄光のために、わたしがこれを創造した。これを形造り、また、これを造った。

ここに、主がイスラエルの民を造られた目的があります。ご自身の栄光のためです。それは、イスラエルが正しい、高潔ということとは必ずしも限りません。彼らが、いかに罪を犯したかを明らかにしているのは、神ご自身です。そうではなく、ご自分の名のゆえに、恵みによって、ご自身が結ばれた契約を覚えるために、イスラエルを造られました。彼らの動きや歴史を見ると、神の栄光が見えるのです。

### 2C 国々に対する証し 8-13

<sup>8</sup> 目があっても見えない民、耳があっても聞こえない者たちを連れ出せ。<sup>9</sup> すべての国々をともに集わせ、諸国の民を集めよ。彼らのうちのだれが、われわれにこのことを告げ、初めのことを聞かせることができるだろうか。彼らが自分たちの証人を出して証言し、人々がそれを聞いて、『本当だ』と言うようにせよ。

イスラエルの民自身は、まだ目が見えていない。耳があっても聞こえていない者たちを、諸国の民の前に連れ出せ、集めよ、と言われます。彼ら自身がまだ気づいていないのですが、しかし、神ご自身が、イスラエルがいかにご自身の栄光を表すために造られたのかを示すのです。これがまさに、今のイスラエルにも起こっていることです。

キリスト者でもかなり多くの方が、「イスラエル人は、イエスを信じていない。ましてや神を信じていない。だから、彼らが約束の地に戻って、国を建てたといっても、それは神の約束の成就ではないのだ。」という人たちが多いです。いいえ、全くそれは間違っています。彼らが神を信じていなくとも、目が見えず、耳が聞こえなくなっても、それでも神は彼らによって、世界が否応がにも、ご自身が生きておられることを示しているのです。

アーノルド・トインビーという歴史家があります。彼は無神論者でした。彼の目には、古代の民族がなくなり今は存在していないのに、ユダヤ民族だけはそのまま残っているのに気づいていました。聖書に出てくる、カナン人、ペリシテ人、エドム人、モアブ人、アンモン人、アラム人、みな、古代の民族になっています。しかし、イスラエル人については現に今も、大勢います。しかも、離散の地で数多くの迫害、虐殺を経てきました。彼らが消滅するどころか、栄えているのです。だからトインビーは、「彼らは化石の民族だ」と言いました。シーラカンスのような生きた化石だということです。無神論者が、神を思わざるをえないのです。

イスラエルの人たちは、その多くが神を信じていない世俗派です。けれども、自分の国のことを語ると、なぜか神のことを持ち出さないと説明できないのです。初代首相のベングリオンは、こう言いました。「イスラエルで、奇跡を信じなければ現実主義者ではない。」彼は世俗派で、ユダヤ教を実践していません。けれども、奇跡を信じるとか、神を信じているかのように話すのです。神をまだ知らないのに、神に知られている民であります。

<sup>10</sup> あなたがたはわたしの証人、——主のことば—— わたしが選んだわたしのしもべである。これは、あなたがたが知って、わたしを信じ、わたしがその者であることを悟るためだ。わたしより前に造られた神はなく、わたしより後にも、それはいない。

神は、ご自身以外の一切、神はおらず、ご自身こそが神であることを示すために、イスラエルの民を証人としておいておられるのです。彼ら自身が、神に選ばれたしもべであり、他に神々はいないことを知るためだということです。

私は、このみことばを見て、ユダヤ人について、もっともっと知らなければいけないと思うようになりました。1994年、アメリカに行って、カルバリーチャペルで学ぶ一年前に、首都ワシントン DCにある、ホロコースト記念館を訪問しました。4時間ぐらい見ていたでしょうか、あまりにも衝撃を受

けて、とんでもないことが、単に人が行った悪以上に、悪霊どもがその背後で動いているというか、悪の深淵さを感じました。そして出口に、このみことば、「あなたがたはわたしの証人」と掲げられていたのです。

これは、私が今、見たことによって、あなたはホロコーストの記憶を証言していかなければいけないという意味をくみ取ってほしいと思っているのですが、文脈ではイスラエル自身が神の証人です。それでも、イスラエルは 8-9 節で見たように、世界の人々が否応にも、この方が神であり、ほかに神がないことを証しするために立てられているのです。

<sup>11</sup> わたし、このわたしが主であり、ほかに救い主はいない。<sup>12</sup> このわたしが、告げ、救い、聞かせたのだ。あなたがたのうちに、異なる神はいなかった。だから、あなたがたはわたしの証人。——主のことば—— わたしが神だ。<sup>13</sup> これからもわたしは神だ。わたしの手から救い出せる者はない。わたしが事を行えば、だれがそれを戻せるだろうか。」

ここの「わたしは神だ」というところは、直訳は「わたしは彼だ」となっています。つまり、モーセに主が現れて、ご自分の名を宣言された時の、「わたしはある、というのがわたしの名だ。」というのを、思い起こさせているのです。イエスご自身も、「わたしは、ある」と言われました。この方だけが主であることを、行いによって示されました。

### 3B 荒野に流れる川 14-21

#### 1C カルデア人の逃亡 14-15

<sup>14</sup> あなたがたを贖う、イスラエルの聖なる方、主はこう言われる。「あなたがたのために、わたしはバビロンに使いを送り、彼らをことごとく逃亡者として下らせる。カルデア人を彼らの喜びの船で。

<sup>15</sup> わたしは主、あなたがたの聖なる者、イスラエルの創造者、あなたがたの王である。」

主は、ご自分がイスラエルを贖われる方であるだけでなく、聖なる方であることを示しておられます。なぜか？バビロンに対して、裁きを行われることによってご自身が聖なることを示すのです。主は、バビロンを用いて、イスラエルに裁きを行われました。しかし、それはバビロンが正しいことをしているからではありません。主は、悪を通してご自分の栄光を表されるのです。

ですから、主がイスラエルを贖うとお決めになって、それを実行に移される時に、バビロンが倒れるようにされるのです。バビロンには、ユーフラテス川が真ん中を走っています。彼らはそこに、エンタテのための船を浮かばせていました。けれども、今は、その川を使って逃げているのです。

#### 2C 約束の地の平和 16-21

<sup>16</sup> 海の中に道を、激しく流れる水の中に通り道を設け、<sup>17</sup> 戦車と馬、強力な軍勢を引き出した主は



こう言われる。「彼らはみな倒れて起き上がれず、灯芯のように消え失せる。

主は、ご自分を、イスラエルを紅海を渡らせて、エジプト軍を海に沈ませた神として現しておられます。そして、バビロン人たちに対して、倒れて起き上がらせず、消え失せさせると言われます。

<sup>18</sup> 先のことに心を留めるな。昔のことに目を留めるな。<sup>19</sup> 見よ、わたしは新しいことを行う。今、それが芽生えている。あなたがたは、それを知らないのか。必ず、わたしは荒野に道を、荒地に川を設ける。<sup>20</sup> 野の獣、ジャッカルや、だちょうも、わたしをあがめる。わたしが荒野に水を、荒地地に川を流れさせ、わたしの民、わたしの選んだ者に飲ませるからだ。<sup>21</sup> わたしのためにわたしが形造ったこの民は、わたしの栄誉を宣べ伝える。

主は、バビロンからの、約束の地への帰還を第二の出エジプトにしようとされています。イスラエル人がエジプトで奴隷だったところから、贖い出されたように、バビロンで捕囚の状態から贖い出し、約束の地に戻されます。

ところが、「先のことに心を留めるな。昔のことに目を留めるな。<sup>19</sup> 見よ、わたしは新しいことを行う」と言われます。どういうことか？エジプトから出て行った後でも見なかった、新しいことです。それは、荒野の川を流すということです。バビロンでは、ユーフラテス川からカルデア人たちは逃げましたが、ユダヤ人たちは自国に戻ったら、荒野に祝福の川が流れているということです。しかし、これは彼らが、バビロンから戻っても実現しませんでした。主は、終わりの日の幻として、これが将来に起こることを約束しておられるのです。

今のイスラエルについて、これらは一部、実現していますが、完全にそうになっているとは全然言えません。ネゲブ沙漠は広大であり、そこに川が流れるのは、一年に一回、降雨があった時、鉄砲水で涸れ川に水が流れるぐらいです。しかし、これらがイスラエルの人々の幻に、生き生きとしていることは見ることができます。初代首相、ベングリオンは、ネゲブにユダヤ人が住み着くことを夢に描いていました。荒野に川が流れ、人々が住めるようになることを夢見ていたのです。先端技術によって、農地が開発され、工業も発達し、また、水不足の問題を排水の再利用や、海水の淡水化によってかなり進めています。けれども、もちろん完全な成就是将来を待たないといけません。

## **2A 呼び求めない民 22-28**

そして次に、再びイスラエル民自身が、これら希望に満ちた神のご計画に、きちんと応答できていないことを示されます。

## **1B 礼拝への疲れ 22-24**

<sup>22</sup> しかし、ヤコブよ、あなたはわたしを呼び求めなかった。むしろ、イスラエルよ、あなたはわたしの

ことで疲れ果てた。<sup>23</sup> あなたはわたしに全焼のささげ物の羊を携えて来ることはなく、いけにえを献げて わたしをあがめようとしなかった。わたしは穀物のささげ物のことで あなたに苦勞をさせず、乳香のことで、あなたを煩わせてもいない。<sup>24</sup> あなたはわたしのために、金で菖蒲を買わず、いけにえの脂肪で、わたしを満足させなかった。かえって、あなたの罪でわたしに苦勞をさせ、あなたの咎でわたしを煩わせたただけだ。

イスラエルの民は、こうした将来と希望を与える計画を聞いているのに、主の名を呼び求めませんでした。そして、礼拝でいけにえを携えていきません。靈的に疲れてしまっています。そのために、罪に陥っています。世の思い煩いにふけてしまっているのです。

これは、キリスト者にも襲う、靈的な危機ですね。信仰をもって歩んでいるけれども、遅々として、物事が進みません。その靈的歩みに疲れが生じます。けれども、主は希望に満ちたご計画を示してくださっています。ところが、いつものことだとばかりに、御名を呼び求めないのです。そして、礼拝に熱がこもらなくなります。

## 2B 御名のゆえの赦し 25-28

<sup>25</sup> わたし、このわたしは、わたし自身のために あなたの背きの罪をぬぐい去り、もうあなたの罪を思い出さない。

ここが、ものすごいことです。40章以降のテーマになります。イスラエルは罪を犯し続け、主はバビロンによって裁かれました。けれども、七十年を経たら、主は将来と希望を与えるご計画に従って、彼らが祈り求める中で、エルサレムに帰還させることを、エレミヤを通して約束しておられました。その時に彼らが、十分に応答しておらずとも、彼らの行いによらず、あくまでも、「わたし自身のために」、主ご自身のゆえに、彼らの背きの罪を拭い去るのです。罪を思い出さないのです。エゼキエル書にも、主の聖なる名のゆえに、彼らを帰還させる約束があります(36章)。

私たちは、この新しい契約に基づいた神の約束の中に、キリストのゆえに入れられています。「ロマ 3:24-26 神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いを通して、価なしに義と認められるからです。神はこの方を、信仰によって受けるべき、血による宥めのささげ物として公に示されました。ご自分の義を明らかにされるためです。神は忍耐をもって、これまで犯されてきた罪を見逃してこられたのです。すなわち、ご自分が義であり、イエスを信じる者を義と認める方であることを示すため、今この時に、ご自分の義を明らかにされたのです。」

<sup>26</sup> わたしに思い出させよ。ともにさばきに向かおう。あなたが正しいとされるために、あなたのほうから申し立てよ。<sup>27</sup> あなたの最初の先祖は罪を犯し、あなたの仲保者たちはわたしに背いた。



仲保者とは祭司たちのことです。

<sup>28</sup> それで、わたしは聖所のつかさたちを汚し、ヤコブが聖絶されるように、イスラエルがののしられるようにした。」

今、主が、ご自分の恵みと憐れみによって、あなたのほうから申し立ててくれと、訴えておられます。主は、ご自分の名のゆえに、彼らの背きを赦そうとされています。けれども、彼らは罪を犯して、エルサレムが破壊され、バビロンでののしられているのですが、そのまま、神の赦しを自分のほうから受け取ろうとしません。それで、自分が義と認められるために申し立てよ、と訴えています。

これが、神の恵みによる救いの使信です。その救いは用意されています。しかし、それを受け取るのは、信仰によって行わないといけません。目の前にあるのに、それを心で信じて、口で告白しないといけないのです。私たちは今、その恵みの時に生きています。受け入れて、恵みをむだにしてはいけないのです。